

第Ⅲ章 都市の将来像

1. 都市づくりの基本理念

- ・霧島市都市計画マスタープランは、第一次霧島市総合計画に即した計画とするため、都市づくりの基本理念は、第一次霧島市総合計画で定めた『世界にひらく、人と自然・歴史・文化がふれあう都市』とします。

【都市づくりの基本理念】

世界にひらく、人と自然・歴史・文化がふれあう都市

2. 都市の将来像

- ・都市づくりの基本理念を実現するための都市の将来像についても、第一次霧島市総合計画に即するため、第一次霧島市総合計画で定めた『人と自然が輝き、人が拓く、多機能都市』とします。

【都市の将来像】

人と自然が輝き、人が拓く、多機能都市

3. 都市づくりの目標

- ・都市づくりの主要課題や都市づくりの基本理念、将来像を踏まえ、将来の都市づくりに向けた施策展開の目標を次のように設定します。

【都市づくりの基本理念】

世界にひらく、人と自然・歴史・文化がふれあう都市

【都市の将来像】

人と自然が輝き、人が拓く、多機能都市

【都市づくりの目標】

(1) 多機能都市

南九州の交流拠点としての交通体系、豊かな自然・歴史・文化、さらに製造業、農業、観光業、商業などの産業をバランス良く配置することにより、「住む・働く・学ぶ」といった多種多様な機能が調和した、快適で安心・安全な県央地域中核都市づくり。

(2) 人と自然が輝く都市

市民と豊かな自然が輝きながら共生し、快適に住み、働き、学びながら様々な交流ができるまちづくり。

(3) 人が拓く都市

市民一人ひとり、市民団体相互が信頼関係を築き、それぞれの立場で行政との協働を進めることにより、市民が主役となった自立性の高いまちづくり。

(1) 多機能都市

1) 集約型都市構造の都市づくり

- ・人口減少・超高齢社会の到来に向けて、都市全体としての暮らしやすさの向上と持続的な発展が可能なまちづくりを進めるために、過度な自動車依存からの脱却や都市機能の集約を行い、集約型都市構造への転換を進めるとともに、各地域が有機的なネットワークで連携した都市づくりを目指します。

2) 土地利用バランスのとれた都市づくり

- ・現状の土地利用や市街地の動向等を踏まえ、市域全体からみた各地域の役割を明確にした上で、活力のある中心市街地の形成や、住宅、商業、工業等の土地利用バランスのとれた都市づくりを目指します。

3) 交通ネットワークが整備された都市づくり

- ・本市は、1市6町の合併により県内第2の面積を有することから、市内各地域の連携・交流を促進し、また、先端技術産業を中心とする製造業、茶や畜産物などに代表される農林水産業、旅館・ホテルなどの観光業などの産業基盤としての道路交通ネットワークが整備された都市づくりを目指します。
- ・本市を中心とする活発な都市間交流を促進するため、鹿児島空港や各インターチェンジ周辺のアクセス性の向上や結節機能の強化による、広域的な道路交通網の利便性向上を図ります。
- ・また、災害時の緊急輸送や、避難場所までの市民の円滑な移動を確保する道路交通ネットワークを整備します。

4) 安心・安全に暮らせる都市づくり

- ・既成市街地・集落地や主要公共施設等の建築物の不燃化・耐震化等の促進と、自然災害に対応した治山・治水対策、避難場所・避難路等の確保による、災害に強い都市づくりを目指します。
- ・駅や主要な公共施設などにおいては、高齢者や障がい者等を含めた全ての人々の移動の円滑化、歩いて行ける範囲内で買物や福祉サービスの利用が可能な空間の創出、さらに、犯罪が発生しない、発生しにくい環境づくりを進め、誰もが安心・安全に暮らせる都市づくりを目指します。

(2) 人と自然が輝く都市

1) 水と緑豊かな自然環境が保全された都市づくり

- ・霧島屋久国立公園に代表される貴重な自然と調和した環境を保全するとともに、水循環・生態系に配慮した公園・緑地、下水道・河川、供給処理施設等の都市施設、都市環境整備を進め、水と緑豊かな自然環境が保全された都市づくりを目指します。

2) 霧島らしい美しく個性ある景観を形成する都市づくり

- ・本市が有する霧島連山～錦江湾～桜島を望むダイナミックな自然景観の保全や、霧島神宮、温泉郷などの歴史的・文化的景観を生かした景観形成、中心市街地や住宅地などの魅力ある市街地景観の創出など、霧島らしい美しく個性ある景観づくりを目指します。

(3) 人が拓く都市

1) 市民と行政の協働による都市づくり

- ・市民一人ひとりが都市づくりに参画できる機会と場を増やすことにより、環境保全や防災、公共施設の維持管理など、まちづくりのあらゆる場面において、市民と行政の協働による都市づくりを目指します。

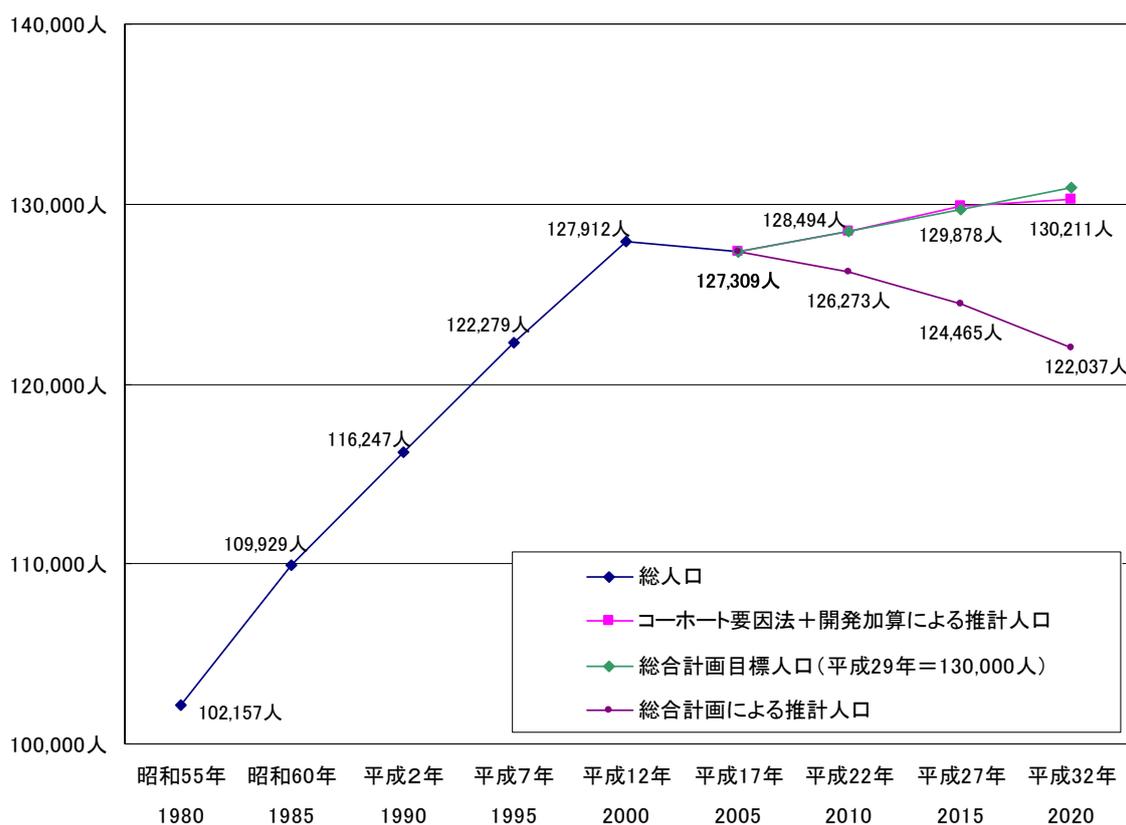
2) “新たな^{こう}公”による都市づくり

- ・市民、事業者、行政、NPO、ボランティア組織など多様な主体が協働してまちづくりの担い手となる“新たな^{こう}公”による活動を支援するために、様々な都市づくりに関わる組織の設立を促すとともに、これらのリーダーとなる都市づくりの担い手の育成を進めます。また、公園など都市施設管理においては、指定管理者制度*の活用など、多様な主体によるまちづくりの推進方策を検討します。

4. 将来目標人口

- ・晩婚化・未婚化などに伴い、合計特殊出生率（一人の女性が一生の間に産む子どもの平均の数）は低下を続け、わが国は人口減少社会へと突入しました。
- ・このことは本市においても同様であり、第一次霧島市総合計画では、平成32年の推計人口は122,037人まで減少するものと予想しています。
- ・第一次霧島市総合計画及び第一次霧島市国土利用計画では、産業基盤の強化や生活環境の整備、子育て支援の充実等の施策を推進し、人口増加を目指すこととし、平成29年の目標人口は、130,000人に設定しています。
- ・本計画における平成32年の将来目標人口は、第一次霧島市総合計画及び第一次霧島市国土利用計画と整合を図るものとし、これら上位計画による平成29年の目標人口である130,000人とします。

● 将来目標人口：130,000人（平成32年）



※コーホート要因法

各年齢階層別の人口を、将来の自然増減要因（出生・死亡）と社会増減要因（転入・転出）を掛け合わせて推計する方法。

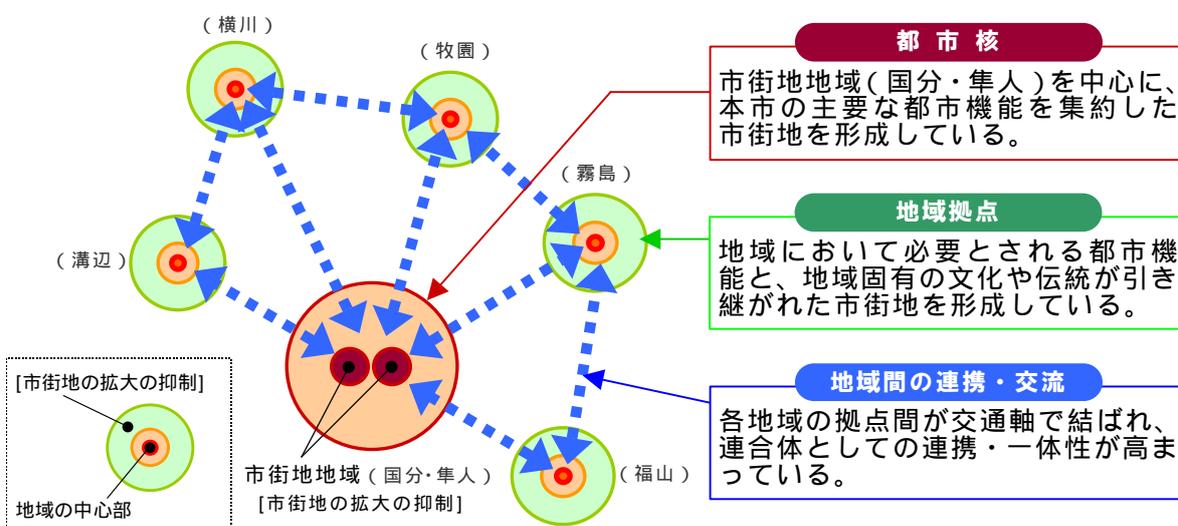
5. 将来都市構造

5-1 集約型多極連携ネットワーク都市構造の形成

- ・本市の都市構造は、都市づくりの目標を実現し、市域の均衡ある発展を図る観点から、市街地の拡大の抑制を基本とした「集約型多極連携ネットワーク都市構造」の形成を目指します。
- ・本市の地域間流動は、アンケートや交通調査の結果より、国分・隼人地域と、他の地域間の結びつきが強くなっています。このことから、本市が目指す集約型多極連携ネットワーク都市構造では、国分・隼人の2つの市街地地域を中心としたエリアを、本市の主要な都市機能を集約する「都市核」と位置付け、溝辺、横川、牧園、霧島、福山の各総合支所等周辺地域を「地域拠点」と位置付けた上で、それぞれが個性ある機能分担を図りながら連携しあう交流ネットワークの構築を進め、市域全体での魅力と活力ある都市づくりを進めます。
- ・集約型多極連携ネットワーク都市の都市づくりが実現した将来の姿は、次のように想定します。

<p>●多極：地域それぞれが自立した個性ある地域となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地域には、まとまりのある市街地と豊かな自然・田園がある。 ・各地域には地域の「顔」や「中心」となる場や機能がある。 ・地域固有の文化や伝統が引き継がれている。 	<p>●連携：地域が互いに連携しあい活力や賑わいが維持されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地域が利便性の高い交通でネットワークされている。 ・地域の資源が生かされ、暮らし、産業、観光など多様な交流が育まれている。 ・地域の資源を有効に生かしたまちづくりが行われている。 	<p>●共生・協働：人や環境にやさしく、地域や市民主体のまちづくりが行われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障がい者も含めて暮らしやすい。 ・地域環境に負荷をかけない。 ・多様なまちづくりの担い手が生まれている。
--	--	--

将来都市構造：集約型多極連携ネットワーク都市構造



■集約型多極連携ネットワーク都市の概念

5-2 地域、都市拠点、都市軸の整備方向

- ・本市の将来都市構造は、土地利用の基本的な枠組みを示す“地域”、生活や生産活動等の中心として様々な都市機能が集積する“都市拠点”、他地域や都市拠点並びに自然景観を結ぶ“都市軸”で構成します。

(1) 地域（土地利用の基本的な枠組み）

1) 市街地地域（国分・隼人）

- ・本地域は、JR 国分駅周辺、市役所を中心とした市街地地域（国分）と、JR 隼人駅周辺、見次交差点^{みつぎ}周辺を中心とした市街地地域（隼人）の双眼構造とし、本市の主要な都市機能の集積と、拠点性の強化並びに定住化の促進を図る地域です。
- ・土地利用の基本的な方針は、商業・住宅系土地利用の高度化の促進、低・未利用地の有効活用、市街地の利便性を高める地域交流ネットワークの強化、災害に強い市街地の形成とします。

2) 田園住宅地域

- ・本地域は、市街地地域の外周部及び鹿児島空港周辺部にあたり、優良農用地が多く、本市の農業生産を担う基幹的な地域として高い生産性を維持していく地域です。
- ・また、本地域では住宅地の開発が比較的多く行われていることから、用途の混在が少ない、魅力的で快適な住宅地の形成を推進する必要があります。このことから、用途地域の見直しなどを進め、住宅立地の適正な誘導に努めます。
- ・我が国を代表する先端技術産業を中心とした既存の製造業の集積は、引き続き本市の強みとして位置付け、環境と産業が調和した地域づくりに努めます。また、本地域は、広域交流ネットワークへのアクセスが良く、企業立地条件に恵まれた地域であることから、既存工業団地への企業誘致を図るとともに、隼人港周辺など、新たな工業用地の確保を検討する必要があります。
- ・土地利用の基本的な方針は、魅力ある住宅地の形成、生産効率の高い営農環境の形成、効果的な道路整備と秩序ある沿道開発の推進、新たな工業用地の確保とします。

3) 丘陵森林農業地域

- ・本地域は、里山の持つ美しい自然環境や歴史的景観を保全するとともに、我が国屈指の温泉郷を生かしたまちづくりに努めていく地域です。
- ・既存工業団地等にある低・未利用地については、積極的な企業誘致の推進による有効活用を図ります。
- ・土地利用の基本的な方針は、コミュニティの中心となる生活圏の形成、産業用地の有効活用と適正配置、身近な自然環境の保全、自然と調和した中山間地域^{*}の魅力と活力の向上、山間地災害への対応、耕作放棄地の有効活用とします。

4) 山岳森林地域

- ・本地区は、霧島屋久国立公園などの豊かな自然環境を有する標高 500m以上の山岳地帯にあたり、豊かな生態系を有する森林、溪流、貴重な植物など、良好な自然環境を保全していく地域です。
- ・土地利用の基本的な方針は、健全な森林・河川の保全、並びに豊かな生態系や山間集落・農地などを生かしたグリーンツーリズム*及びレクリエーション空間の創出とします。

(2) 都市拠点

1) 都市核【市街地地域（国分・隼人）周辺】

- ・2つの市街地地域（国分・隼人）を中心とした地域は、本市の“まちの顔・玄関口”となる「都市核」として位置付けます。
- ・都市核は、市街地の拡大の抑制を基本とし、公共交通の結節点となる機能、行政、文化、商業・業務、サービス、医療・福祉、住居機能等、主要な都市機能の集積を図ります。

2) 地域拠点【溝辺、横川、牧園、霧島、福山の各総合支所等周辺】

- ・旧町役場周辺などで一定の都市機能が集約されている地区等を「地域拠点」として位置付け、無秩序な市街地の拡大の抑制を基本に、拠点性の維持・向上を図ります。

3) 広域交通拠点【鹿児島空港、各インターチェンジ周辺】

- ・鹿児島空港並びに九州縦貫自動車道・東九州自動車道のインターチェンジ周辺を広域交通拠点として位置付け、アクセス性の向上や結節機能の強化により、海外や国内各都市と結ばれる広域交通機能の充実を図ります。
- ・併せて、既存工業団地への積極的な企業誘致を図り、地域産業の振興に努めます。

4) 観光・レクリエーション拠点【国立公園とその周辺区域、温泉郷】

- ・我が国最初の国立公園である霧島屋久国立公園とその周辺区域、並びに全国的に名高い温泉郷（霧島温泉郷・霧島神宮温泉郷・新川溪谷温泉郷・^{ひなたやま}日当山温泉郷）周辺を観光・レクリエーション拠点として位置付け、アクセス性の向上を図るとともに、景観の保全・形成を図り、観光・レクリエーション拠点としての競争力の向上を図ります。

(3) 都市軸

1) 南北広域連携軸【九州縦貫自動車道、空港】

- ・市域の南北を結ぶ九州縦貫自動車道及び鹿児島空港を中心とした軸を南北広域連携軸と位置付け、安全・円滑に通行できるアクセス道路網の整備等により、本市と近隣市町村や他県をつなぐ交流・物流の強化、災害時の緊急輸送等の確保を図ります。

2) 東西広域連携軸【東九州自動車道】

- ・東九州自動車道を中心とした軸を東西広域連携軸と位置付け、安全・円滑に通行できるアクセス道路網の整備等により、本市と近隣市町村や他県をつなぐ交流・物流の強化、災害時の緊急輸送等の確保を図ります。

3) 地域連携軸【国道 220 号、国道 223 号、国道 504 号、主要県道等】

- ・各拠点間を結ぶ道路を地域連携軸と位置付け、地域住民の日常生活における利便性・アクセス性の向上、災害時の緊急輸送等の確保を図ります。

4) 視軸【霧島連山～錦江湾～桜島】

- ・17 世紀から形成された舞鶴城（国分城）下の町割りは、南北軸を霧島連山と桜島を結ぶ軸とした格子状の道路となっており、現在の市街地にも継承されています。
- ・また、「桜島を臨む錦江湾の海の風景」「紅葉や樹氷をはじめとする霧島連山が織りなす山並み風景」は、各種アンケートからも、市民が誇るべき景観として圧倒的な支持を得ています。
- ・このことから、霧島連山～錦江湾～桜島を望むダイナミックな眺望を「視軸」として位置付け、道路計画や建築計画などの際にはこの視軸を尊重した都市の形成を図るとともに、眺望景観の確保に努めます。

5) 水と緑の景観軸【天降川、霧島川、錦江湾沿岸】

- ・天降川、霧島川、並びに錦江湾沿岸を水と緑の景観軸と位置付け、沿川・沿岸の自然や歴史とふれあうことができる水辺と、緑の集積地を相互につなぐ景観軸を形成し、市民にうるおいを与えると同時に、様々なレクリエーション空間を提供します。

将来都市構造図



凡例

■地域	
○	市街地地域（国分・隼人）
■	田園住宅地域
■	丘陵森林農業地域
■	山岳森林地域
■都市拠点	
○	都市核
●	地域拠点
○	広域交通拠点
○	観光・レクリエーション拠点

■都市軸	
↔	南北広域連携軸
↔	東西広域連携軸
↔	地域連携軸
↔	視軸
↔	水と緑の景観軸

※本図は大まかな範囲を模式的に示したものです。